



神奈垣
康文編

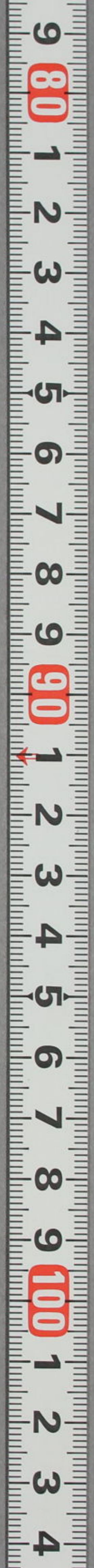
現今支那事情

下

歴史
共二
下

支那事情

ル5
8453
2



儿5
8453
2

國會
支那

支那

現今支那事情卷之下

近來擾亂

橫濱 神奈垣魯文鈔輯

支那近來に至り數々外國と戦争し毎小敗績し
て國威を滅ぶるの權輿と乾隆帝の時代不何り
抑も乾隆帝を明君とて世上頗る阿片煙流行を
名を患ひ其害を作れことを知り嚴令を下し渡
来する所の阿片を嚮く事を禁し且つ其所有の
阿片を盡く焼くむ然まども英人等密く不交易

取消

する事猶止まず其後嘉慶帝の世に至り益盛不
 して下民の嗜む事甚ざりと雖も敢て禁む事
 能はず蓋し當時を文學不耽り武備を講ずる事
 を忘る泰平を娛る國勢暗不衰ふ其子道光帝の
 初めより懦弱の佞臣著英伊里布の徒宗室の大
 家なるを以て相國の位不居り權柄を弄するを
 榮とし其人を選擧する不唯柔順なる者を用ひ
 て大官不任し專ら要路不當てしめけるが故
 不賄賂公行し政事不正經ある事ふく遂に外國
 の侮りを受る不に至る時不英人等清國の紀律頗

る紋びたるを窺ひ又阿片を持来り交易する事
 次第不多し抑も阿片の物たるや麻毒甚ぞ強く
 五分以上を服するときは或は麻死救ふ處うた
 び然ども烟草少しく和一且精神を媮妖する事
 痛楚を除き哮喘を止め一旦精神を媮妖する事
 美酒不酔ふ如し故不貪苦慎濃の人と雖も此
 を用ふを心氣寛懷安眠の樂を得る事あり
 故不一度吸ひとる者も口を離れんと能ふざる
 不に至る故不英人等交易第一の物とし屬國印度
 不數多の罌粟を作らしめ夥しく阿片を齎らし

來事二万七千兩一兩ノ價金三其翌年又載せ
 來事二万四千餘兩然きども支那の官吏等皆
 賄賂を貪り縱りて問を以故不兩國の商民も公
 然として交易し忌憚る者ある事ふ一時山東
 の文官黃爵之ある者上書して阿片烟を禁せん
 ことを請ふ其言甚ど剴切あり朝議此を是とし
 新令を下し嚴し阿片を吸ふことを禁む下民千
 人を一保とし一人禁を犯せむ十人皆罪不行ふ
 且阿片を隠し置き或ハ烟管を貯ふ者死罪不
 處し官吏法を縱らざる者ハ官職を奪ふ又英國

の船官等不諭し嚴しく令を傳へ再び渡來する
 事を制禁む然とも密り不賣買せむ者多し且支
 那商民の陰に不畜ふ事猶多し道光十九年
 我天保道光帝阿片の制禁尚行届らざるを憤り
 十年林則徐を以て廣東の總督に命し嚴しく阿片禁
 制の事を糾さしむ林則徐廣東に至る不及んで
 英船二十二艘中不畜ふ所の阿片を悉く徵攝ん
 と欲し船官等を責て其商館を圍み食道を斷ち
 以て英人を困苦せしめ終に船中不有する處の
 阿片二万二千八十二兩を取り盡く之を燒捨

たり英人快々として亞媽港アモカを去る林則徐リンテクトも尚
 進んで亞媽アモカに至り阿片の禁を立る事廣凍クワントウも同
 且此地の密ヒソカを賣買ウライする商人數十人を捕
 へて死刑シツに處し又英の甲比丹アヒタンを責め密賣ヒソカした
 る英人を出さしめんとて船官等種々他言すと
 雖も更さらに聽入キコせしむ即ち軍卒イクサを命メし商館シヤンカンを圍トみ
 て食道シキダウを斷トつ英人等困コトむ事甚シどしく遂スに密
 う不香港フホウカウを遁ニる林則徐リンテクト又江海の郡邑クンイを令レし英
 人の上陸ジョウリクを防ヘぐむ英人等大オホに怒イラり道光廿
 年我天保の冬商船二艘を軍艦イクサフネの如シく不仕立大

砲を備へ廣凍クワントウを侵す林則徐リンテクトを兼て待設マツテせしむ
 所トコロありれを即ち十三艘の大船を出し許多の鉄砲
 を備へて之を迎戦ムカヒせしむと雖も皆未塵ミチに打碎ウチ
 うる大いに敗軍クハレせり時不英人其牙キバ揃ソり及レびと
 る始末シマタを飛脚ヒキヤク船を以て印度インドと本國ホンクニに注進チュウジンせり日
 あたりて印度インドに居ルるスミットを大將ダイシャウとし軍艦
 數艘スウボウ香港ホウカウ不到着トクし英人の艦官クワンを訪ミひ乃ち進マり
 て廣凍クワントウの入口イロに至ルる林則徐リンテクトも六艘の軍艦イクサフネも大
 砲を備へ此を打攘ウチせんとす然シカも英船堅固イクサフネ
 不して彈丸ダンガン中ナカると雖ども打貫ウチく事能コトはずスミット

トモ猶も進んで劇しく打掛け悉く沈没せしむ
 然きどもスミットは亞船に就て和を乞ふと雖も
 聴かず道光廿一年我天保英の軍艦國王の命を
 受て亞媽不着船を一手を東印度勤番の提督
 ヲメルを大將とし騎兵歩兵都合一万六千を
 引卒し又一手を本國の提督エルリオットを大將
 とし人数も前不同し又翌日追々不到着し其他
 ベンガラ國の土人種々の船に乗組て着船せり
 此土人も極めて愚鈍にして淫欲甚どし然ども
 敵に向ふ時は矢玉雨霰の如くあるを恐るす少

しも死を顧みざる者あり故に英人此を愛養し
 戦場不用に敵地不上陸する時の先驅となせし
 云ふ同年五月下旬英の軍艦亞媽を出帆し六月
 七日寧波海上に至り直ち舟山島を奪ひ之不
 據れり蓋し此島を周圍二十五の海港有りて軍
 艦の出入するに便利あり要津あり昔倭寇も先
 取てより四方を故に英人此島より四方に船を
 却掠せりと云ふ故に英人此島より四方に船を
 出して侵掠を働くを以て乍浦より以南寧波鎮
 海福州等の海濱の諸州悉く其難不懼りて萬民
 寢食を安むる事能く又北京にて舟山島の

守を失ふを聞て上下震驚を因て満清の大相國
伊里布欽差大將軍と為り海兵二万餘人を帥ひ
寧波に至り港口を封ト險隘を防守するの節度
を為す時不英國より一昨年林則徐が燒捨する
阿片烟の値銀二千一百万兩を速小受取べき旨
廣東の官吏不就て催促不及べり官吏曰く禁制
の品物を齎來るときは此を燒捨るを國法にて
値銀を出すべきの理なきを精論すと雖も服せ
ず一國人民衣食の為め不作りとする産物を悉く
取上げて其價を贖むざるの理知らんやと抗論

益々劇しく日々人を倍して督責一奈何ともす
ることふ一遂に廣東の官吏等憤り不堪也も事
能はず乃ち軍卒不命一英人數百名を捕へて禁
獄に英人等大に怒り我國人民の産物を騙買
し値銀をも贖むを却て我を使者を押監を討む
んや何るべし乃ち兵を出し廣東を侵伐
先清主之を聞て大に怒り皇姪奕山王を大將
と大臣數名並びに満州の強兵五万を帥ひ廣
東不趣き英將エルリオットと戦ひ大に敗れ清
兵數千を損し又退きて廣東市街に戦つて敗ら

清人西度の大敗頗る畏怖するの状を察し
 速々不値銀二千一百万兩を納て和睦せよと勸
 むと雖も聽かず同月英の本國より援兵數千軍
 艦まで到着英兵其勢ひ愈々強大にして進て
 厦門を攻めて之を取り鎮海を奪ひ其勢破竹の
 如く寧波府の總督及び將軍等皆恐怖して我先
 不と逃去し英人戦を志して寧波を取り總
 て府城を取る毎不倉廩を開ひて米穀錢貨を散
 して土人の貧窮を救ふを常とせ斯くて道光廿
 二年我天保春英人舟山不ぬる者疫病不罹りて

死する者多く又廣東に於て亞墨利加人と予楯
 起り兵勢頗る衰ふと聞き清の諸將此間不亞媽
 と舟山との通路を斷んとせ英將スミットを豫
 め之を知り軍艦を護して之を打破り英軍の勢
 ひ復振ふ同三月清の大軍舟山寧波鎮海の三鎮
 を伐つて皆敗北し大臣以下軍卒の死亡數万人
 又其敗兵を聚め慈谿縣不化しけるを又押寄せ
 大ひ不之を打破り次て清國第一の備場ヤング
 ハス不進軍時不清人昏夜中不悉く焼拂つて
 逃去れり同四月英人乍浦を攻下す初め滿兵能

く戦ひ英兵を中不圍之微塵ふせんとせり然る
不清兵ハ満兵を棄て援あざる不因り満兵却て
大敗せり英兵ハ猶進んで吳淞ハ逼る此城ハ揚
子江の入口にて清國無雙の名將と呼さる陳
化成五州の兵數万を卒ひて之を守る陳化成の
英人ハ備ゆるや上城を増築く事一百二十四丁
別ハ大砲を鑄造する事六十門其最大なる者重
八十斤其他武備嚴密あり英人陳化成ハ威名を
憚り敢て攻撃せず其軍艦吳淞近岸を進退往來
すること十五六日城兵固く守りて出戦の様子

更ハある事を一英將其畏る可きの伎倆ハを
探り直不攻撃する事恰も迅雷の如し陳化成は
技術を盡して防禦せし雖も終不城陥りて戦死
す北京不於て吳淞既ハ陥り陳化成戦死すと
聞て支那大臣等英人長江不入らん事を畏る數
万の人夫を起し數處不砦と砲臺を築けり英兵
等漸々之を打破り數處不於て大砲を奪ひ得る
る事六百六十八門と云ふ又初ボツカテ一グリ
ス城を攻落せしより屢々砦を打破つて此處ま
でハ大砲を奪ひし事凡そ三千餘不及べり且

其中の大砲不黄銅を以て美麗不鑄造一征夷の
 銘あるりの多し然きとも皆英人の有とあり已
 が砲又て已に撃り事と為り又揚子江蓼角
 藩より圖山關の間不水路四重の關鎖あり英人
 既不第一第二の關鎖を打破りて第三關鎖外な
 る石牌灣不至れり時不清國執政者英伊里布等
 和睦を乞えんが為不英兵の擒十六人を歸せり
 然きとも猶進んで圖山關を打破つて軍艦悉く
 長江不乘入けきと清國大臣等大不恐き頻り不
 和睦を請ふ英將等曰く清主自身不請ふべしと

以て聽益々兵を進んで長江兩岸の陣營臺
 場數處を攻取り鎮江府を攻む當城ハ南京第一
 の輔翼なるを以て大臣及び將佐數多の滿兵七
 千餘と清兵數万とて固めたり英人此を攻撃す
 る事二日滿兵の戦死する者殆んと殲きて城遂
 不陥る六月十八日英の軍艦鎮江を發し燕子磯
 不至る南京を隔る事僅り不三里たり清の相國
 者英伊里布等愈々恐き大臣數輩を使者と頻
 り不和睦を請ふ英將等曰く實不和を欲せ先
 我不阿片值銀を贖ひ且廣東福州厦門寧波上海

開きて交易場と為す
斯くて道光二十五年我弘化阿片值銀皆濟せし
不囚て英の軍艦上海舟山諸島不在陣せる者皆
悉く引拂ひ去り廣東小滯留せる者多し支那人
ハ其始めより條約を慎守せしが次第に英人を
悪むの氣增長し廣東市外近邊勝手不入込む事
を惡之日々小喧嘩口論殊小甚し遂に廣東を
逐出し困苦せしむりて英國香港の奉行之を
聞き大不憤り道光二十七年我弘化二月十七日
應對の位階同等とるべき事且つ香港を割て永
萬圓を三ヶ年小皆濟すべき事其他兩國の官負
ち四年前林則徐が燒捨とる阿片值銀二千一百
兩國の大員江寧府小會し和睦の議約を定む即
睦を允し道光二十二年我天保七月廿四日清英
奈何とす事能はず相國等が勧め小從ひ和
りて其旨を告げ直ち小北京小奏せ清主も今を
主の實印を以て請ふなり和睦せんとして使者歸
兩主官負も同等平礼を行ふべきを例と為し清
等の地を割て我英國の交易場と為し以後清英

英領地小歸一廣東福州廈門寧波等の五港を
開きて交易場と為す
斯くて道光二十五年我弘化阿片值銀皆濟せし
不囚て英の軍艦上海舟山諸島不在陣せる者皆
悉く引拂ひ去り廣東小滯留せる者多し支那人
ハ其始めより條約を慎守せしが次第に英人を
悪むの氣增長し廣東市外近邊勝手不入込む事
を惡之日々小喧嘩口論殊小甚し遂に廣東を
逐出し困苦せしむりて英國香港の奉行之を
聞き大不憤り道光二十七年我弘化二月十七日

數艘の軍艦を密に廣東川不趣り一ハボツカ
ラグリノ城を奪ひ翌日ワシボ一港不在番の英
兵と共に廣東小趣き同處にて又此一ヶ處を奪
掠す清國廣東奉行之を聞き大驚き自ら香港
不行て英國奉行小面會一種種々政事不行届不
て下民等貴國人民不無禮を致しる過を謝し
ボツカラグリノ城を歸さん事を乞ひ且七ヶ
條の過書を出して城砦と交還せり斯くて道光
二十八年我嘉永元年清英和親を結ぶと雖も舊怨未
と解せ殊々廣東人民を槩して英人を仇視し常

小黨を結んで英人を殺さん事を圖り因て英國
商館の近村海岸の地ハ各軍艦數艘を備へて嚴
重犯すべからざる事と力まり其後咸豐三年我嘉
永六年廣東不於て支那雇奴の英船不在る者を支
那の官吏恣に捕獲せしより遂に兵端を開き支
那人英の商館を焼く故に英の軍艦亦屢々の砲
臺を毀ち廣東を焼拂ふに至る此不於て清國亦
許多の償金を出し和を講じり同六年我安政支
那人英商船アルロ一号を奪掠せり英國在留の
公使其暴行を爭論しる不支那官吏之を朝侮

一齒牙不懸る不足る事と力せしを以て遂に
 兵端を開き此役や支那人の勇氣先年不數倍し
 且軍備あり小船隊を夥しく備へ英艦を攻撃せ
 しが盡く破壊さると雖も尚降を請はず三年間
 能く英軍と相持たりしつて英政府治國の才
 名ありるロルドエルジンを欽差大臣として支那
 不送れり且支那の事件ハ歐洲各國同狀の利害
 何處を以て佛國も欽差全權大使と共に一艦隊
 を送り英國を助けたり是を以て同盟軍大不張
 り英大使ロルドエルジン其主務を果さんと箇

條書を以て云送りし不確答あきを以て咸豊七
 年我英政の歳未不及んで海陸進んで廣東を陷
 れ水軍北京に通ずる北河の砲臺を抜き並河
 流を溯り天津に至り慶亦支那帝同盟軍の北
 京に侵入せん事を懼き異議なく條約を書記し
 り此盟約の大目ハ第一諸港を開きて通商す
 る事第二西教を弘むる事第三西教を奉ずる者
 を保護する事第四北京各國公使を在留せし
 むる事等なり此度の條約ハ支那帝必ず固守せ
 る所ならんと想ひし水師提督本國に歸りた

一、其職小代り咸豐九年我安政更不改正しと
る條約を重修の爲め英の使節ホーブ天津に
赴く途北河に到り、大小兩岸の砲臺を修繕
し不意に襲撃せしり英人死する者多く使節
も纒み自身を以て急きを脱きたり此時佛國の
使節も亦此難を罹り
天津の條約北河を開き英軍艦の出入自由を
議定したる不盟約不背き是の如き暴舉あり
を懲さんと翌咸豐十年我萬延の春英佛同盟軍

の軍艦數艘二万の兵士を率ゐ海軍ハ北河の北
かるペタン河に駛入し水夫を上陸せしめ諸砲
臺の後面より攻め掛り此砲臺ハ港の方小當
り三里許の所不在り其砲臺不韃韃の旗一條を
樹るの外寂々として軍氣の實ある見ず悉く砲
眼を鎖し全一兵何れもなし而して此路上泥濘
ふして大小兵士困難すと雖一彈丸を費さず
てペタン迄進軍せり而して英將ポーフランド
地理探索すべき爲め兵士一千を率ひ佛將も又
一千の兵士を率ひ相續て三里許進み一處も初

支那事情 卷之十 十三

りて敵の哨營あり韃人其中に居り半里餘後の
本隊を合し三百人許隊を結んで來り佛人の橋
を越ると等しく砲發し及べり佛將令を下し隊
を兩岸に立てし敵の騎兵二千許左右に分ち
英の縦隊の側面を攻撃せしより佛將を敵を
し再び身を避くる地ありしめんと欲し大
砲を令し直ち哨營を撃破せしめ且佛軍隊を
左に立て英軍は右に立て又先づ韃兵を襲し
たる英兵は其面を左に變じ且急ぎ散兵を令し
砲發せしが其距離遠く敵は敢て英軍に達せざ

又ブリガード隊を此時一千二百歩許前に進み
て止り第二レダメント隊を更し散兵を出して
相拒むと雖敵の砲丸劇しき故に直ち其兵を
救め此に於て兩國の將官令を下し戦を止め使
をペタンに馳て兵の進退を問ふ因てポーラ
ンド及びビモンハタン自ら來りて其光景を考察
せし騎兵を用ふるに非ざるを其戦ひ難きを
思ひ遂に退軍し決し其兵を引拂ふんとする際
背後の高處より敵の砲發せしより因り英軍は傷
者三人佛軍は六人あり又此際韃人を敢て尾撃

坂部書情 卷之十 十四

直ち其兵を斂め且此戦小特小勝利を得
るを喜び之を北京に報知せしと云ふ爾後
人の其勇氣を増し或は陣前數百歩の地
を來り劍を舞ひ嬉戲を為し以て同盟兵
を慢侮せしと云ふ又ペタン小於て英軍
水小乏き小苦しと云ふ舟を以て清水を
運輸せしむる小其舟韃人の為小妨害を
被むる寡うは因て海軍將小ポー
通官モローを韃陣に遣り韃兵若し我
兵小砲發せざば我兵も又敢て砲發せ
ざと遂に此談判を遂げ兼て支那字を
用ひ書記せし休戦旗

を韃人小贈り且告て曰く歐洲小於て
特小此旗を尊び此旗を持する者ハ敢て
害を加ふる事な貴國も又然るを欲せ
と此小於て韃人等も亦其好意を謝せり
と云ふ八月十二日同盟軍ハペタンを
發し兵を二道に分ち一手ハ天津の歸
路を斷ち以て韃人の逃路を塞ぎ之を
して太沽城小遁るの外他小活路を求
むるの地ありと云ふ一めんを計り既
小して進軍兵隊ハ路上泥沼小困
し之漸く少許進みし時較々堅土の
地に到り衆軍少しく其脚を息せし
小此際忽然韃の騎兵

前小現き長く一行小整別一英兵の進軍を妨ぐ
と雖敢て屈するの意なく忽ち之を追拂ひ已ふ
一々韃の騎兵頗る大軍にて陸續縦隊を布く凡
二千ヤルドの距離小陣を布く時小同盟軍ハ前
面なるアルムストロン砲隊小令して進行せし
め凡千五百ヤルトの距離小至り直ち小破烈の
彈丸續々敵の頭上小散亂其猛烈なる巨雷の
空小轟く如く韃の縦隊も喫驚の際一時皆散
亂せしが須臾小して又集り列を整へ暫く拒戦
を小雖猶敗走せず此際韃の用ゆる大砲ハ無用

のレンガル砲小して毫も切驗なりと雖猶支柱
して拒戦一既にして総軍旋轉移動して同盟軍
を困まんを此於て同盟軍の右翼に在る騎
兵未だ韃兵の近寄ざる際部下の砲隊より劇
しく射撃せしより終に隊伍を亂し敗北を又
右翼に回りし韃兵ハミルワルド部下の砲二發
と前後の施條砲及びロツトン部下の回轉砲の
射撃とを冒し四百五十ヤルドの距離に進み此
世界中敢て知らざる者なき猛烈の砲火小對し
支柱たる事良久し頓て彼の一部の騎兵横し同

支那事情 卷之下 十六

盟軍横隊の前面を疾驅し急ぎ第四ブリガデー
隊の前面に射發しつりと雖終り敗れて逃去り
たり此際韃兵の射丸は多く地上に埋ま或は頭
上を飛び過ぎ一も敵兵の傷害を為さばれ共同
盟軍の彈丸は劇しく敵兵を壓撃し暫時の交戦
に韃兵大に敗走せり又一手の敵の本營より約
ね九百ヤルドの地不在る第二哨營に到り此處
にて兵を左右に分け八百ヤルドの距離に於て
射撃し又敵の騎兵左方より動くを見直ちに進ん
で敵の本營に及び左方より動く騎兵を射撃しア

ルムストロン砲二門火力劇しく終り敵兵其陣
營を捨らんとせし同盟の後軍躊躇せざるに際
に韃兵一百人餘不意に之を砲撃し其勢は神速
なればハリエデナント此敵は應戦の備ある暇
なく適々シークス兵の奮戦せしむり敵兵遂
に襲撃する事能はず皆散乱して退きしと雖り
エテナントハ重傷を負ひしと云ふ其他各處に
小戦ありしに韃兵皆大敗して太沽城の方へ却
きしと蓋し此戦闘は同盟軍に死者二名傷者三
十人餘ありしが韃兵の死傷最も多く凡そ五六

十七

百人ありと云是より進んでタンクラーの堡砦を
 攻む此堡砦を英佛製の大砲四十二門を備へ
 嚴しく拒戦すと雖遂に其防を可うらざるを察
 一驚擾して急小郊外に出皆前村を望み道走せ
 一同盟兵の尾撃する小韃兵の斃る者恰も
 球を轉するが如く加ふる小韃兵を其火箭の頭
 上へ飛鳴散亂する小驚き只管大道を傍ひ疾走
 一纒ろ小河畔の一村落を逃匿し漸くタンクラー
 村へ入ることを得るを此堡砦と村落との間小
 ベータンクラー小等しく泥沼小浴ふする一帯の郭を

繞り郭内の地甚と廣く且泥土を以て造り
 房舎郭下を連り此小備へ大砲の周圍に韃
 人の屍體累々として山の如く亦此郭の如きハ
 敢て韃の砲兵の守衛すべき者非ざる共アル
 ムストロン砲隊の劇しく砲撃せしとき其爆撃
 小堪へ能く之を守りしを實に怪むべし此廓小
 大砲四十五門を備へ韃兵三四千人ありりと
 而して此戦に同盟軍小傷者僅ろ小英人三名佛
 人十餘名あれども韃兵の死傷頗る多くして其
 數確定し難しと云タンクラーの東南凡そ六十ヤ

ルド小堡砦あり之より三里許の處小僧格林沁の本營あり而して其砦小を數多の旗幟を翻へ頻り小戦闘を挑むの状を形せしむ同盟兵を只管時機を伺以更小戦ふの意あり因て鞏兵ハ此小砦を出てタングー村の角隅小在る堡砦より時々大砲を點放せしむ同盟兵ハ毫も其傷害を受る者少く而して鞏兵ハ暫時如此せしと雖遂小自り之を止めしむ然る小支那政府より文書數回贈ると雖英人更小之に應答を為さず後三日支那營にて休戦旗を樹て數通の

書翰を贈り且英人の捕獲せし者を送還せべき旨を言送り直ち小英兵一名及ヒマドラス鉄兵一名を送還しし然る小此二名ハ囚留中支那人の之を遇する殘忍を極め患苦の甚としきが為起立する能くざる小至り殊小其手腕と兩踝の如きを嚴小縛縛せしむり繩下の肉破き且軍曹を喪心人の如く暫時妄語を吐く小至れり次の日休戦旗を樹てしが直隸の総督耒り相與小談論の後英人小告て曰く今和睦を講ずべき為北京小於て委員を任し當時既小發途の中不在

り願くを此輩來着し講和の議定に至る迄互
に交戦を止むるの約を結むんと頻り之を懇
祈し且其軍を擒獲せし者十三人を送還せり因
て同盟軍より又土人を交還しつり然まども
八月十四日同盟軍をタンクー城を攻略し兼て
諸塔を侵襲する為めロペルト子ピール氏の分
隊を此城内に居らしめ軍議一決し諸塔の攻撃
既し始まり砲聲は空に響き山谷に振れて數里
間の地を震動するが如く互に劇しく攻戦せ
しが英兵河を越んとするに船艦近傍に非ざる

より他物を以て船に代へ前岸に達するを得と
りしが茲に浮橋を作らんとせしに韃兵堡塔の
中より之を望み頻りに砲發せしが英兵ハルリ
一部下のアルムストロ砲一對をタンクーの
一方より運輸し劇しく之を發射せしより敵
兵遂に敗走す此前岸の菓樹園中に數軒の人家
ありて又太古と天津間の本道不出る一路あり
佛兵を進んで此路に入りしが韃兵等左右の菓
樹園の内を潜伏し不意に銃射せしより暫時
拒戦して直ちに其兵を追却し木を伐り路を開

進んで一堡砦に近づき遙ろ小之を望めて鞭
 兵二三百許堡内を守り一より佛兵を勇を鼓
 一急小此堡障を砲撃せし何ぞ料らん敵の偽
 計小陥り鞭の騎兵蟻集し八方より圍撃し佛兵
 を恰も蜂巢の中小在るが如く此に於て急使
 を馳せゼ子ラールモンハタン氏に援兵を乞ふ
 小より直ち小數百の兵と數門の大砲を以て之
 を救をしむ佛兵の數凡そ一千四百の多き日
 至り大力を得て敵の騎兵を撃退し終り此堡障
 を抜き南岸の地を得たり又英兵を北方の堡砦

小向つて進行し大約一千ヤルドを隔て其隊兵
 を止め休戦旗を持して胸壁小近づき告る小和
 約を講し盟を結ぐん事を以て是とよつて守將
 と覺しき滿人之を聞き頃小傲慢の心を生し謂
 て曰く余敢て汝の言を聴む汝等若し此堡砦を
 要する心何ふを當小同盟の兵を併せ來て之を
 取べしと此應接の間小マジヨルグラハム氏を
 堡砦の堅否及び形状の如何を熟察せし使者
 の退ぐくや否や敵兵の北方の兩砦より砲撃す
 る事極めて急あり然き共預しめ敵の攻撃小備

ヘーミルワルト部下のアルムストロン砲兵數
門の大砲を連發し大約一時間相拒之戦へり此
時敵の砲丸殊小烈しと雖僅う小陣具二三を破
壞せしのみにして死傷一名もなると云斯て北
一日同盟軍ハ敵砦を襲撃せんと欲し英兵ハ夕
ンコー及びビノルスフォルド間の中央に在る泥地
の陣營を出發す其勢凡そ二千五百人佛兵ハ又
ダンコーより進發せしが此勢凡千人餘又敵兵
ハ東方の將小明りんとする頃同盟軍の進撃を
曉知し急小各處の堡砦より砲銃を射撃し既小

戦ひ小及び一が六時半後小至りアツペルノル
スフォルドの火薬庫破烈して其響恰も震雷の如
く周圍の地を動揺せり既ふして又三十分後小
ローエルノルスフォルドの火薬庫も亦破烈せし
ガ是河口小備ふる英の砲兵の射撃せし破烈丸
の爲す所ありと又諸堡砦の發射大抵終りし後
英兵の一部も堡砦の門側を破り小銃を發射す
る爲小三ヤルドの處小進入せしが此時佛兵
ハ右小在て英の歩兵ハ左小あり既小敵砦小入
りし故小敵兵ハ砦を出て小銃を以て劇しく發

五ノ下
五ノ下

射たり此時佛兵の河に傍ふ敵砦の凸角を
 突進し最も勇威を顕し水沼を越へて敵砦外營
 の側ある狹き處に赴き更ふ此處より砦壁を攀
 ぢ其内へ侵入せんとせしが敵の劇しく拒戦せ
 たり遂に志を達せざる事能はず又坑兵等も扁
 艇橋を架せんと欲し頻りに奮勵せしと雖敵の
 銃丸劇しき故に兵卒十四五人一時に撃殺せ
 らる扁艇橋も一箇を毀れしなり此時英將ナピ
 ール部下の兵士に令し勇威を振ひ路の狹隘な
 るを顧みず第一に突入り又此時チャブレイン

ハ六十七聯隊の助けを得て第一に突砦に各處
 の破口を聯隊旗を樹て以て砦内の高臺上へ又
 之を立て高臺先登の第一人となり又同時に
 佛兵入り來り敵の守兵を追却して銃窓より之を
 狙撃したり而して入砦後英兵も高臺より敵を
 狙撃する事最も劇し此中堡塞外の地は韃兵の
 死體及び傷者の多きに實に驚きたり此戦争終
 りて後暫らくありて敵の南堡砦の壁上に白旗
 を樹て以て和睦を請ふんと欲するの意を示せ
 しゆに同盟の將帥等敵の如何なる條約を結ぶ

んと欲するや之を檢束る為め各部下の士官を遣りけるが僧格林沁部下の英國譯官書簡を出し而して其旨趣の同盟兵を既し一堡砦を據有せし故に支那人の河口より水閘を移し以て和議を成す為め同盟兵を天津迄行くを得可き權利を許す不在りと英國士官大に怒り其書を扯破し以て譯官の面上に投じ且之を脅嚇して曰く獨り一箇の堡砦のみにて自餘の堡砦も亦皆午後二字前小異論を持せず交付するに非ざらむ直ち小軍を進め更し他の堡砦を攻撃すべし

一と而して敵兵の據守するローエルノルス、ルド、小高臺ニケ處ありてアツペルノルス、ルトよりハ許多の大砲を備へ又同盟兵の攻撃の設備を為し既し進んで敵砦に逼り其勢ひ殊小盛ありしが此際敵兵の彈丸一箇を發する小及むず突然門を開き守兵二千餘人皆降参せり此時又南の堡砦も白旗を樹し故にパークスも隨從士官と共に小河を渡り南方堡砦を交付する處分を為し同盟兵三百人其堡砦を交收する為河を渡り至りしよりペーポの兩岸より天津

不至る全地を異ふく絞斂せり此日戦争不英士
官二十二人重傷を負ひ其中死する者多く且兵
卒の即時不死せし者十七人傷を被者百六十一
人あり佛兵も又死傷を合算する不大凡百三十
人及び士官中不亦死不至り者ありと云然
共敵の死傷を算する不違あく當時堡砦内外
を見る不地として死體の横をざるをなく其死
傷を合算すれば凡そ二千人餘不下らずと云
太沽を略取するの後同盟兵の砲船を遣り河口
不進むの道を開くし海軍總督不及びパーク

スの二名兵糧船コロマンデル號不駕して天津
不向ふ此時隨行の砲船五艘ありし不兩岸の人
民等軍艦の通過するを見て頗る驚愕の状あり
と雖敢て抗敵の色を形をす者なく却て皆力を
盡し進行を便せしめ既にして途上不ゆる
ワンチヤン村の城砦下不至りし不砦中寂々と
して人影を見ず而して天津を距る十里許の処
不碇泊し翌日此地を護し天津の河下不何る兩
城砦不至り水夫を上陸せしめ天津の前不碇泊
す時不支那の委員兩名支那帝の命を受け此地

ふ来りハハロルドエルヂンを北京に護送する者なり因て同盟軍營より左の文書を投ぜり其略ハ曰く天津ハ之を英佛の有ハ歸せしと看倣べし然モ其地方官ハ舊ハ依り其職を行ハ其人民を保護するを聽すト是より先一隊の水夫既ハ命を受け城邑の東門ハ據居せしガ是ハ至リ其門上ハ英佛の旗章を翻し圓頂の格廓ハ布告を出し此地の人民ハ其所屬の改まりしを知らしめたり斯くて騎兵隊ハ其翌日天津ハ到着し而して第三のリュツプス隊ハ滯留して太沽の

城塔を成らしめ総軍ハ天津の城下ハ屯集せしが此際上海の諸城陥りし後又南京ハ一揆起り住民等騒然たるガ故ハ之を鎮靜の爲四十聯隊ハ彼の地ハ出發せり既ハして和議を講ずべきの布告あり又當時同盟軍より彼モ談判せし所モ其條約ハ記載せし所の外更ハ天津ハ外國貿易場を開き且此度の償金八百萬テールを償えしめ而して此金を償えざる間ハ太沽の諸堡を還さざる可き談判ハ及べり此布告ハ因り衆人皆軍事の終りを思ひしハ九月六日ハ至

り突然急報あり其概畧ハパークスとド二氏
の支那理事官ウェーリヤンハンフ二人不
委任状を見んと望ミ一時此二人不和議を
可き権なきを知り又支那理事官ハパーク
トの両氏不深く已グ權の有無を究問せし
ト轉已の官職を信せしめ以てロルドエル
氏不天津不於て全く和議を決せしめ然
衛の兵を滅して北京不赴し支那帝の宮
不於て盟を結せしめんと為し更不詭計を
ロルドエルデン氏を危ふせんと為し不
然

共ハパークスとド二氏ハ敵の奸謀を看破
又エルデン氏ハ之ガ為支那理事官不告る
其支那帝より受けし委任状有る不於てハ速
不チンチョー不至り會議を可きを以てせり
於てホークランド氏ハ直ち不チンチョーの
路不前衛の兵を護し後軍以て進行しホウ
ウ不着しパークスとド二人数々親王等
と談判に不及ふと雖一も確乎たる事なり
てホウセイウ不一レジメントを置き十七日
此地を護しマトウ不赴きロルドエルデン氏ハ

此處不在留を決一パークスの數名と共に出立
ナンペン村の中央に三日前韃兵千人許に集
せしが既不退きと聞同十九日マドウを發
一凡そ四里許進行せしが此時韃の探偵兵英軍
の近づくに従ひ徐く退き一里許先の營内不
入り騎士數人休戦旗を持して彼等の常の
如く支那の遁辭を辯ぜり又パークスの數輩を
伴ひ此日ナンシヤを出發せしが途上於て韃
兵の大軍に遇ひ敵の大砲を各處に配置し分明
に合戦の用意を為し且韃人の其初め懇懇に應

接を為せし其語次自ら其意を察する不足
をパークスの韃韃士官の遁辭なるを知り支
那委員不背約の罪を論辯せんと欲し一旦復々
ナンシヤに皈れり又支那の使臣スホルホーパ
ラントに對し現に屯集せし數百の韃韃兵も敢
て他故ある不非む同盟兵に要用の供給を徵辨
せざる為途上不在るを確的不應答せし後直ち不
歸去れり而してナンシヤより同盟兵の来るを
待ち樹蔭に憩ひし韃兵の屯集する營地より
五百ヤルトの處に英軍の營外に浴び突然レン

ガ
ル
砲
及
び
許
多
の
雜
砲
一
時
射
放
せ
し
故
英
の
騎
兵
大
小
驚
き
漸
く
し
て
血
路
を
得
し
此
時
韃
兵
八
万
餘
の
大
軍
を
嘗
て
韃
靺
將
帥
の
意
に
同
盟
軍
を
欺
き
静
小
之
を
敵
地
に
誑
誘
し
然
る
後
突
然
攻
撃
す
る
を
謀
り
し
あり
然
れ
共
戦
ひ
早
く
始
まり
し
故
小
其
策
遂
小
成
就
せ
ざ
り
し
又
此
時
パ
ー
ク
ス
及
び
隨
行
の
者
未
ど
歸
營
せ
ざ
る
より
ソ
ル
ポ
ー
ブ
グ
ラ
ン
ト
の
同
盟
兵
を
直
ち
小
進
發
せ
し
む
然
る
小
敵
兵
を
劇
しく
砲
發
し
而
し
て
其
據
守
す
る
地
ハ
大
道
を
横
切
り
長
き
數
里
の
營
陣
後
小
十
六
門
の
砲
臺

を
設
け
以
て
同
盟
兵
を
防
禦
し
且
步
兵
の
進
行
を
妨
げ
騎
兵
の
為
は
特
小
妨
害
を
為
し
し
り
と
云
斯
く
て
互
ひ
小
戦
闘
二
字
間
劇
しく
戦
ひ
し
が
韃
兵
遂
小
堪
る
能
を
漸
々
小
引
退
き
し
が
英
の
騎
兵
を
勢
ひ
小
乘
し
之
を
襲
撃
せ
し
が
故
小
敵
兵
を
本
陣
へ
退
く
の
暇
亦
く
遂
小
遠
隔
の
地
に
遁
逃
し
し
り
此
他
諸
隊
小
戦
争
あり
と
雖
韃
兵
悉
く
敗
走
せ
り
且
此
戦
争
小
韃
兵
の
死
體
ハ
之
を
數
あ
る
小
暇
亦
し
と
雖
同
盟
軍
ハ
特
小
損
傷
少
し
而
し
て
大
砲
七
十
四
門
を
奪
掠
せ
り
此
戦
争
中
小
パ
ー
ク
ス
及
び
隨
口
ル
ド
エ
ル
從
の
者
捕
獲
せ
ら
れ
し
と
り
小

ジンハ此日ホウシウ小在て遙小大砲の響を聞
 き大不怪一居り一不夜半後ソルポーグ
 ラントよりの報を得て大不驚き翌朝チヤンチ
 ヤワン小赴き擒獲せられ一諸人を回解せ一む
 る評議一決一英の騎兵を急ホタンシウ迄進め
 以て其地形を探偵せ一め次てウエードハ兵を率
 ひてタンシウ小至り同地の壁外小於て支那吏
 眞小面一回解の事を談判せ一不其吏貪の曰く
 擒獲廿餘名ハ十八日戦争將小始まらんと云る
 前皆此地を脱せりと然き共全く當日北京小押

送され一と云因て同盟軍ハチヤンチヤワンを
 發一遙々小敵兵の来るを望と既小砲門を開き
 兩軍相接一漸く二百ヤルドの距離小及び一際
 韃人ハ大叫一て堤を越へ火繩銃を發すると齊
 一奮激一して英兵を攻撃せ一りハ同盟軍ハ急
 小アルムストロソ砲を發射一と一因て韃人ハ
 初め英軍小不意を撃ち既小退去せんと為すを
 思ひ大不勢ハを得て更小馬小鞭ち開敵と共小
 進撃せ一不何ぞ圖らん英軍の劇一く彈丸を連
 發一加ふる小第二ク井隊の施條砲丸ハ宛も

雨霰の飛が如くあれを韃兵等碎易し瞬間に數
百歩退きしが英軍此機に乗じ更し騎兵を左に
進め又ドラクン隊に直ちに進んて韃兵を襲撃
し奮撃突戦互ひし死力を竭し暫時交戦韃兵終
に支ふる能く敗北す此一戦に英軍の兵卒死
者一名士官一名重傷を負ひとり其他死傷なし
と雖韃兵の死傷頗る多く諸處に散亂せりと其
他右方に進撃せし同盟軍の騎兵を追拂ひ
しが敵の大軍雲霞の如く其數實に無涯ありし
と雖アルムストロン砲の為し皆碎易し右往左

往し遁逃せり又佛軍ハ敵と石橋に戦ひしに遠
く敵兵を追却せり此時滿將ハハハハ重傷を被り
兵卒の死傷五百名に下らむと其他隣村に潜伏
の韃兵同盟軍を見て窓間より銃射する者少
らば故し直ちし令して其家室に火を放ししむ
因て韃兵恐怖し火焰を冒して遁逃せり而して
此處に都城を距る大約八里許なりといふ同廿
二日同盟軍は韃兵の進を来しを見しに既し
て一士官手し休戦旗を持ち来て支那帝の弟恭
親王の口ルドルエルン氏に贈る書翰を出しと

其略曰くツァイ親王及び穆親王の行ふ處
屢齟齬の事有るを以て皇帝令者余をして之
代らしめ以て特命全權公使に任じ更し和議を
講べしめんとは因て暫時休戦の約を結ぶん事
を欲すと口ルドルエルチン氏之に答て曰く余嘗
てコンマンドルインチープの名を以てタシチ
ヤウの総官たる満人小投付せし約書あり其中
小苟も北京小囚留する英兵を送還する小非ざ
れに敢て休戦の約を結ぶを聽さず親王宜しく
其書を讀て事を所置すべしと然る小令復恭親

王より書を贈りて曰く支那政府の實小英人數
名を擒とせり然き共已小交兵の後小獲とるを
以て正小會盟の事を諾し且兵を國外小退く小
非ざれば以て其縛を釋き難しとエルジン氏答
て曰く囚虜の宜しく釋て我小還すべし然らざ
ば我軍直ち小進行せん而して其京師を陥せ
其朝鼎を奪ふや否や不至りてハ吾能く知る處
小非小貴國若し和議を要せば囚虜と盟約と當
小同一時小為すべしと斯くて恭親王小之を議
する小猶豫三日間を約す既小して期日幾んと

支那事情 卷之下 三

至る不未ど應答ふ一故不英兵踊躍して交戦を
期せ一か佛兵未ど来らぬ又巨砲来らず因て援
兵巨砲の至る所を直ち不進撃せんと欲せ
一か此間恭親王の數書を贈りて以て英軍の進
行を遅緩せんと請ふ其言茫然として更不信義
あり而して放虜の事を終不論ぬるなり廿九日
ハークス氏手りら英漢兩文の書を作り恭親王
の書と同封せざる者至る初め英兵の禽とせらる
るや後絶て其音信を得ぬ故を以て英軍皆以為
らく必ず殘刑不遭ふとは是不於て始めて安否を

詳々不士卒等大不歡喜せりと茲不エルシ
ハ前約を取り僅々不一羣の銃兵を率の進んで
一村村落を取り以て之不據れり三日後軍運河を
濟りてチヤンチヤウ村不抵り以て仮不本營
とす既不して佛の援兵到着す都合其勢一万人
佛兵を左より一英兵を右より全軍滿野瀟莫隊
伍齊整として往事四里許ふして帝國の京城を
見直ち不進んでタイレン門の大道不至りて軍
を駐む而して一手の佛軍已不圓明園不進入せ
りと聞き英軍又力を戮せ進む不一名の敵兵を

支那事情 卷之十 三十三

見ず時一の支那人有りて其云ふ所を聞く
に十五日以前支那帝へ後宮貴戚十三人を携へ
且數多の衛兵を將ひて急小他方に出立たり
と又佛兵を宮門を開き亂入せしは閹官等舉
つて聖境不入るを拒み故に二人殺され其餘
ハ皆重傷を被むり
抑此圓明園ハ雍正帝未と皇子たる時賜園去
り園名ハ康熙帝の宸翰にして園の記ハ雍正
帝躬ら筆を採り給ひ且乾隆帝圓明園の後記
あり俱小石碑小勒於園中十八門三間あり

殿宇堂室ハ稻麻の如く大宮門の前輩道の東
西皆湖水小して是を前湖と稱し凡園中ハ四
十景あり各御制の小序并詩ありと云ふ其
勝景比類なく金殿玉樓七珍を壯飾し實に無
雙の名園ありハ一朝の兵燹に悉く鳥有と
ありハこと最も惜む可き極めふありハ
斯る名園既ハ同盟軍の手に入りしより兵卒等
の分捕を實に驚く小絶たり十月八日支那政府
モパルクス及びロークチニ其他佛兵と十餘名放
還せり同十二日支那人アチン門を開ひて降

る左方小を約二百ヤルドを距て別小圓壘あり
城廓と相對せ而して此壘内小の砲臺を築き攻
城砲を備へ北京城廓を撃破せる備へを為せり
漸くて支那政府より擒とせし者を送還せし雖
其囚幽中の殘酷實不忍びざる所なれば同盟軍
の怒氣猶消せん因てロルドエルゲン氏亦く支
那人をして其罪を忘せざしめんか為帝の夏
宮を破壊し又圓明園を焼拂ふに至り然き共
死傷者の為支那政府と談判不及び賞金を交
付せしむるの約も未決定せず故にロルドエル

ゲンより恭親王小書を贈り先般談判不及び
償金高本月廿二日渡し同廿三日小盟約書小押
印し天津條約を取替す可き事を本月廿日の午
前十時迄返答なき時を再び我軍務をして北
京の帝居を取らしめんと然き共英軍ハ毎小支
那人の食言せしを慮り北京襲撃の準備を為し
北京を焼拂ふ可き為大砲をチレン門小排列し
其動靜を伺ひ返答の如何を待し小支那政府ハ
二十日の午前七時小恭親王より英軍の談判せ
し諸件を総て承諾ししる答書を送り來れり如

此支那にて談判不及びたる諸件を異儀なく許
せし、當時支那不在留する魯國特命全權大使
の説諭小由るとの説あり又此結局に至らざる
前小一揆起りて當府を攻んとて百里以内小迫
づきたりと此一揆ハセンス人小て當時奪掠を
行ふの好機會とるを思ひ因て一揆を起せしな
り又支那人ハ此一揆の起り小より同盟國と
の和議を結びて而して此一揆を取鎮めるを切
要ありと考慮せし故小此の如く速小同盟軍
の談判小隨ひしこと疑ひ小と爾後和約全小

成りて支那政府より一千二百万弗の償金英佛兩
國小出し前小開きたる五港の外更小牛莊登州
台湾潮州瓊州九江漢口等の八港を開く小及べ
り然き共支那内國當時の形勢ハ諸處小盜賊蜂
起し近來小平穩の年少小其最巨大ある者を
長髮賊と稱し二十年前此時をより江南の地方
煽動し其勢猖獗小して始小賊魁大頭羊大頭鯉
魚等南方を攻掠すること日々甚としく通路為
小阻塞せざるも官人敢て制すること能はば是小
於て鄉民私小義保を立て警護せ然る小義保内

洪秀泉ある者あり少年より膽略あり馮雲
山と云る者と共小粗天主教不通漸々跋扈不
羈の勢ひをあげ終小蜂起の色を顕るなり官
兵先づ之を削せんといふ此時洪馮の二賊等騎虎
難下の勢ひあて官兵を抗拒し郷人を糾合一蓄
髮易服せしめ振あて各所の州縣を陥入る咸豊
四年洪黨船舶二千餘艘小取り乗り順流東下し
安徽葉湖の兵を破り官兵を殺し殆ど數百人
遂小同年三月南京城を陥り洪秀泉明代の舊
宮殿を修整し頭上小天冠を載き身小黃龍袍を

穿ち射ら大平王と稱し此小都一近隣を奪掠し
其凶穢寧波上海の邊小及ひ十餘年を経る平定
する能はざりしが英米兩國の士官支那政府の
兵小力を戮せ終小之を鎮壓する小至れり然る
小其後同治八年三月明治仲夏の季天津の居民攘
夷論を主張する者ありて為小黨を結び該地在
留の佛蘭西人男女併して三十餘人を暴殺せり
此小於て佛國既小大舉して軍艦數艘又も支那
海濱小迫らんとする際彼の國普魯士と戦争利
あふびして大敗せしより遽然國政變革し共和

支那軍情 卷之下 三七

政体とありて紛紜其間を得ざりしより支那危
急の難を通じ彼の擾亂了りし後前非を謝し償
金を出し佛國小和を乞へり依て無事を得る小
至れり且我日本國其藩琉球の國民と内地の漂
民曩に台湾蕃族の為小彼の島岸小於て屠殺せ
られしより政府彼の生蕃を懲罰せしめんと昨
七年西郷都督盛隆赤松海軍少將等小命せられ討
台の舉ありしを支那政府半途ふし之を拒之
しより既小日支の間隙あらんとせしを我全權
大使柳原辨理大臣大久保の両公直に航海して

北京小入り總理衙門小進みて彼の諸大臣を説
降ありしめ和議調ひて台湾蕃地を解兵せらる小
及び則ち支那政府より五十万錠の償金を得て
歸朝あり故小兩國の紛紜全く親睦小歸せらる小
到る抑支那の文物他邦小先達ち教化世界小前
駁せしも其開化半途小駐り自ら尊大潛上小
て他を蔑視輕侮せらるより盟約小背き狡黠を常
とし唯我獨貴の氣象を墨守して却つて數度の
廉耻を蒙り漸々國威を減せらるにと嘆せらる又
餘りあり豈悼しからばや

支那言書
卷之下
三八

附云今回支那帝遽然殂落の報あり聞く帝客
 歲天華の痘毒に觸れ數日間病床に臥せしが
 百治醫功なく終焉國喪を發せしに到れり帝
 諱ハ載淳時小年廿一諸大臣議してトン親王
 の季子載湜を立て帝位を嗣とす同治の年號
 を改め光緒と云ふ

支那事情卷之下了

- | | |
|-----------|---------|
| 大坂心齋橋毘陀太郎 | 河内屋喜兵衛 |
| 同 南久寶善 | 伊丹屋善兵衛 |
| 東京某橋通二丁目 | 山城屋佐兵衛 |
| 同 淺草某町四丁目 | 須原屋伊八 |
| 同 本石町十軒店 | 梶屋喜兵衛 |
| 同 芝大神官前 | 和泉屋市兵衛 |
| 同 所 | 和泉屋吉兵衛版 |

